

令和7年度

「運営に関する計画」



大阪市立茨田中学校

令和7年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】学校アンケートで、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、昨年度最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は7月が83.2%、12月が81.2%であった。今年度は年度末まで意識が下がらないように意識づけしていきたい。また、不登校は大阪市だけでなく本校にとって大きな問題であり、減少に向け関係諸機関や地域・家庭と連携し様々な働きかけを行い中期目標を達成したい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】コロナが収束していく中で「主体的で対話的な深い学び」の活動の時間を確保できるようになってきた。そのため、年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合が昨年度は45%、肯定的な回答は85%まで上がった。今年度も引き続き向上させたい。体力面はコロナ禍で大きく上昇しておらず、運動の強度を上げつつ、「楽しい授業」を行いたい。

【学びを支える教育環境の充実】一人一台端末の有効利用について、今年度の市の活用目標を達成するよう「こころの天気」を含め活用する。教職員の働き方については、ストレスチェックとともに中期目標が達成できるよう年休の取得と残業時間の短縮を促していきたい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末の校内アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。R7 82.3%
- 毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。R5 10% R6 9.2%(2月末現在) R7 10.22%
- 令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。R5 94% R6 93.5% R7 95.5%
- 令和7年度の校内調査の「ごみが落ちていないきれいな学校」の項目で肯定的な回答を85%以上にする。R5 75.8% R6 70.6% R7 76.5%
- 令和7年度末の校内調査の「一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。R5 98.6% R6 98.1% R7 98.7%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上かつ肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。R7 44%・84%
- 令和7年度末中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

現3年 国 R6 100→R7 104 数 R6 100→R7 103 現2年 国 R6 99→R7 101 数 R6 99→R7 96

- 令和7年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。R6 54% R7 57.7%

○ 規則正しい生活を身に付けている児童生徒の割合（「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童（生徒）の割合）を令和7年度末校内アンケートにおいて、80%以上にする。R5 85.4% R6 83.3% R7 85.7%

【学びを支える教育環境の充実】

○ 授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕R6 6.9%(1月末現在) R7 39.2%(1月末現在)

○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

R5 82.9% R6 84%(3月末現在) R7 70%(2月末現在)

○ 令和7年度末の保護者アンケートの「学校では、社会のルールを守る態度を育てようと努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90%以上にする。

R5 97% R6 97.3% R7 97.4%

中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○ 令和7年度末の校内アンケート（校内調査）の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。R5 81.2% R6 80.1% R7 82.3%

○ 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

R5 10% R6 9.2%(2月末現在) R7 11.2%(2月末現在)

【学校園の年度目標】

○ 令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。R5 94% R6 93.5% R7 95.5%

○ 令和7年度の校内調査の「ごみが落ちていないきれいな学校」の項目で肯定的な回答を85%以上にする。R5 75.8% R6 70.6% R7 76.5%

○ 令和7年度末の校内調査の「一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。R5 98.6% R6 98.1% R7 98.7%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合（50%）かつ肯定的な回答をする生徒の割合（75%）をそれぞれ50%、75%以上にする。R7 44%・84%

○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

現3年 国 R6 100→R7 104 数 R6 100→R7 103

現2年 国 R6 99→R7 101 数 R6 99→R7 96

○ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合（R5 53.5%）を50%以上にする。R6 54% R7 57.7%

学校の年度目標

○ 「学校・家庭において正しい生活習慣を守っている」の項目で肯定的回答を80%以上にする。 R5 85.4% R6 83.3% R7 85.7%

【学びを支える教育環境の充実】

○ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
R6 6.9%(1月末現在) R7 39.2%(1月末現在)

○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。
R5 82.9% R6 84%(3月末現在) R7 70%(2月末現在)

学校園の年度目標

○ 令和6年度末の保護者アンケートの「学校では、社会のルールを守る態度を育てようと努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90%以上にする。
R5 97% R6 97.3% R7 97.4%

3 本年度の自己評価結果の総括

【目標達成項目について】

○ 令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。
R5 94% R6 93.5% R7 95.5%

⇒防災・減災教育に関する取り組みを計画的に継続して実施し、危機回避能力の育成を図る。

○ 令和7年度末の校内調査の「一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。 R5 98.6% R6 98.1% R7 98.7%

⇒人権教育・道徳教育を充実させる等、教育活動を通して豊かな人間性を育てていく。

○ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合(R5 53.5%)を50%以上にする。 R6 54% R7 57.7%

⇒規律と運動量を確保した体育授業、適切で活発な部活動、生徒主体の体育行事を継続して行っていく。

○ 「学校・家庭において正しい生活習慣を守っている」の項目で肯定的回答を80%以上にする。 R5 85.4% R6 83.3% R7 85.7%

⇒保護者と連携し、生活指導、保健指導、食育指導等を通して望ましい生活習慣の育成に努める。

○ 令和7年度末の保護者アンケートの「学校では、社会のルールを守る態度を育てようと努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90%以上にする。

R5 97% R6 97.3% R7 97.4%

⇒保護者と連携し、教育活動を通してルールとマナーを大切にする態度の育成に努める。

【目標未達成項目について】

○ 令和7年度末の校内アンケート(校内調査)の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。 R5 81.2% R6 80.1% R7 82.3%

⇒教育活動を通して豊かな人間性を育てるとともに、自他の良さを認め合える学級・学年集団の育成に努める。また、月に一度いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努める。

○ 令和7年度の校内調査の「ごみが落ちていないきれいな学校」の項目で肯定的な回答を85%以上にする。R5 75.8% R6 70.6% R7 76.5%

⇒大清掃の実施方法を再検討し、生徒が主体的に校内美化に関与する機会を増やす。あわせて、日常清掃の質の向上を図るとともに、生徒の美化意識を高め、学校全体で清潔な環境づくりに継続的に取り組む。

○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

R5 82.9% R6 84%(3月末現在) R7 70%(2月末現在)

⇒ゆりのりの日の設定や会議の精選を進めるとともに、業務内容や進め方の見直しを行う。あわせて、ICTの活用による業務の効率化や校内での役割分担の明確化を図る。

○ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

R6 6.9%(1月末現在) R7 39.2%(1月末現在)

⇒学習者用端末の利活用率(R6年平均(4月～3月)61.4%、R7年平均(5月～12月)74.6%)は10%以上上昇した。学習の振り返りを学習者用端末で行うなど、授業時における日常的な活用をさらに推進し、学習の定着と主体的な学びの充実を図る。

○ 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

R5 10% R6 9.2%(2月末現在) R7 11.22%(2月末現在)

⇒早期対応を徹底し、教育相談体制の充実を図る。あわせて、ステップルームなど安心できる居場所づくりを進め、関係機関や保護者と連携した継続的な支援に取り組む。

○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

現3年 国 R6 100→R7 104 数 R6 100→R7 103 (目標 達成)

現2年 国 R6 99→R7 101 数 R6 99→R7 96 (目標 未達成)

○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合(50%)かつ肯定的な回答をする生徒の割合(75%)をそれぞれ50%、75%以上にする。R7 44%・84%

⇒主体的・対話的で深い学びの授業を計画的に取り入れ、言語活動の質を高めるとともに、振り返りを通して生徒一人一人の思考の深化と拡充を図る。

中期(年間)目標を達成した項目は、5項目、目標を達成しなかった項目は、7項目で、不目標達成はできていない。目標を達成しなかった項目の主な要因として考えられることは、目標設定値がもともと高いということが考えられる。

令和7年3月末に北館校舎建て替え工事が終了し、今年度は、仮設校舎および東館校舎解体工事を実施した。工事の進捗に伴い、体育大会を3年ぶりに運動場全面を使って行うことができ、充実した教育環境が実現できた。工事期間中でも、学校内は比較的落ち着いており、静かな環境で学習に取り組むことができている。

来年度も今の落ち着いた教育環境を維持しながら、目標を達成できなかった項目については改善を図り、本校の教育目標である『夢や希望を持ち 自らの力で未来を切り拓く生徒の育成』に努めていきたい。

大阪市立茨田中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>○ 令和7年度末の校内アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。 R7 82.3%</p> <p>○ 毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。R7 11.22%(2月末現在)</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ 令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。 R7 95.5%</p> <p>○ 令和7年度の校内調査の「ごみの落ちていないきれいな学校」の項目で肯定的な回答を85%以上にする。 R7 76.5%</p> <p>○ 令和7年度末の校内調査の「一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。 R7 98.7%</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学期に1回以上、いじめについてのアンケートを実施するとともに、教育相談などを通して生徒理解を図る。また、いじめ案件を認知した際は問題対策委員会を早急に開催し、学校全体の問題として解決に向けて取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学級担任を中心に、電話連絡および家庭訪問を行い、不登校生徒が一人でも多く学校に登校できるように改善を図る。また、昨年度と同様に別室登校用の部屋を作り、教育相談などを行いながら生徒理解を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>前年度末の時点で、在籍生徒に対する不登校傾向のある生徒の割合が、3年生に</p>	B

<p>において14%、2年生において10%、1年生において7%である。不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 避難訓練を火災、地震の2回行い、災害時の避難経路を理解させ、災害があった際の避難方法に慣れさせておく。</p> <p>指標 年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、95%以上にする。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 生徒が主体的に美化活動に取り組めるように、計画的に専門委員会の活性に努める。</p> <p>指標 年度末の校内調査の「ごみが落ちていないきれいな学校」の項目で肯定的な回答を85%以上にする。</p>	C
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳科の授業を要とし、学校の教育活動全体で「一人ひとりのちがいを大切にすする心」を育成する。そのために、道徳教育全体計画別葉をもとに道徳科と他の教育活動との連携を図る。</p> <p>指標 年度末の校内調査の「一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容① 年度末の行内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合が82.3%であった。「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答は96.1%に達しており、大半の生徒がいじめを否定する規範意識を持っているが、校内での様々な取り組みが、生徒個々の「いじめは絶対悪」という内面的な価値観の深化にまでは完全に繋がっていない状況である。</p> <p>取組内容② 在籍生徒に対する不登校傾向のある生徒の割合が、3年生において11%（3ポイント改善）、2年生において9%（1ポイント改善）、1年生において11%（4ポイント悪化）であった。上級生については、別室登校や家庭連絡等の取り組みが奏功し改善が見られたが、新入生（1年生）において不登校率が大幅に上昇したため、「中1ギャップ」への対応に課題を残す結果となった。</p> <p>取組内容③年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合が95.5%であり、目標を達成した。</p> <p>取組内容④年度末の校内調査の「ごみが落ちていないきれいな学校」の項目で肯定的な回答が76.5%であり、目標を達成できなかった。</p>	

取組内容⑤ 年度末の校内調査の「一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合は 98.6%であった。道徳科の授業を要にしなが、いじめについて考える取り組みや総合的な学習で取り組んだ人権学習、各教科等学校の教育活動全体を通して一人ひとりのちがいを尊重する姿勢や態度を育むことができた結果である。

次年度への改善点

取組内容①

「どこからがいじめか」の具体的事例（SNS、いじりなど）を用いたケーススタディを生徒指導や人権学習で実施する。「いじめが許されない理由」「相手の背景」を想像する共感性を育む実践を導入する。

取組内容②

不登校になってからの対応（事後対応）だけでなく、未然防止のためのアンケート（心の天気、いじめアンケートなどの活用）を定期的実施し、予兆のある生徒への早期組織的介入を行う。新入生については、小学校との情報共有を徹底し、配慮が必要な生徒には年度当初からスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを含めたチーム学校での支援体制を構築する。

取組内容③

目標は達成しているが、今年度を上回るように指導する。

取組内容④

生徒の美化意識を高め、大清掃のやり方を見直すなどして、目標を達成するように取り組んでいく。

取組内容⑤

来年度も引き続き、道徳科の授業を要として、と他の教育活動との連携を図り、自他ともに尊重する姿勢や態度を養えるよう、学校教育全体を通して取り組んでいく。

大阪市立茨田中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した

年度目標	達成状況
<p>未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 (R5 45%) かつ肯定的な回答をする生徒の割合 (R5 85%) をそれぞれ 50%、75%以上にする。 R7 44% 84%</p> <p>○ 令和7年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。</p> <p>○ 令和7年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>○ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合 (R5 53.5%) を50%以上にする。 R7 57.7%</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 令和7年度末の校内アンケートの「学校・家庭において正しい生活習慣を守っている」の項目で肯定的回答を80%以上にする。 R6 83.3% R7 85.7%</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>グループ学習を通して話し合う中で、自分の考えを深め広めさせる。</p> <p>指標 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合50%かつ肯定的な回答をする生徒の割合75%を昨年度以上ににする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>ICT機器を利用するなど、教材等を工夫して授業を行い生徒に意欲を持たせる。</p> <p>指標 生徒アンケートでの「数学の学習はわかる」「国語の授業はわかる」という項目でそれぞれ80%以上の肯定的な回答を目指す。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>ICTやペアワーク、グループワークを取り入れた英語活動を行う。</p> <p>指標 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を大阪市平均以上ににする。 R6 61.14 (市 57.5) R7 59.2 (市 60.3)</p>	C
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>生徒一人一人の技能にあった目標を設定し、仲間と協力して意欲的に取り組むことのできる環境作りに努める。</p>	A

<p>指標 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を昨年度（R6 54%）以上にする。 R7 57.7</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 来室生徒や保健だより等で、規則正しい（健康的な）生活習慣についての重要性を呼びかけ、生徒自身が自分で健康管理をできる方法を見つけさせる。</p>	A
<p>指標 令和7年度末の校内アンケートの「学校・家庭において正しい生活習慣を守っている」の項目で肯定的回答を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】 給食時間や教科との連携により、より良い食習慣を身に付け、食への関心を高めさせる。</p>	A
<p>指標 ・令和7年度末の調査で副食の平均残食率を10%以下にする。 ・食に関する授業を教科と栄養教諭と連携し、1回以上行う。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容① 最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合45%で肯定的な回答をする生徒の割合85%でした。昨年度以上は達成することができました。</p> <p>取組内容② 生徒アンケートで肯定的に答える生徒の割合が国語89.2%、数学84.4%であり、目標を達成した。しかし、直近5年間のアンケートにおいて、肯定的回答の割合は国語、数学ともに緩やかな減少傾向にある。</p> <p>取組内容③ 大阪市英語力調査において、CEFER A1 レベル以上の割合が市60.3%に対し、本校59.2%と大阪市平均を超えることができなかった。また大阪市平均は昨年度より2.8上昇している中、本校は2.2下降する結果となった。</p> <p>取組内容④ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合が57.7%であり、目標を達成している。</p> <p>取組内容⑤ 年度末の校内アンケートの「学校・家庭において正しい生活習慣を守っている」の項目で肯定的回答が85.7%であり、目標を達成している。</p> <p>取組内容⑥ 1月末現在で副食の残食率は3.4%であり目標を達成している。食に関する授業も第2学年で実施済みである。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組内容① 昨年度よりも向上しているが、最も肯定的な割合の目標には届かなかったため、改善を図る工夫が必要となった。</p> <p>取組内容② 今年度よりも向上させるために、教科指導においてより一層の充実を図る。</p> <p>取組内容③ 応用力をつけるため、ICTの活用、ペアやグループ活動のさらなる充実を図る</p>	

取組内容④

今年度よりも向上させるため、生徒の興味関心を引き出す授業の充実を図る。

取組内容⑤

目標は達成しているが、今年度を上回るように指導する。

取組内容⑥

副食だけでなく、パンや米飯、牛乳も含めた残食率で目標を設定していく。

大阪市立茨田中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] R7 39.2%(1月末現在)</p> <p>○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。 R7 70%(2月末現在)</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ 令和7年度末の保護者アンケートの「学校では、社会のルールを守る態度を育てようと努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90%以上にする。R7 97.4%</p>	C
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】校内研修を行ったり、ICT支援員の訪問を有効活用することで学習者端末の有効的な活用方法を共有し、授業において使いやすいツールであることを発信していく。 R5 91% R6 92% R7 93%</p> <p>指標 年度末のアンケートにおいて「ほぼ毎日」と答える生徒を85%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>昨年度に引き続き、年休や休暇の取得を促し、様々な業務を分担することで仕事の負担感を軽減し教職員の心身の健康に留意させる。</p> <p>指標 ストレスチェック集団分析結果で、健康リスクの数値を昨年度と同様を維持する。R5 90 R6 101 R7 94</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>民生委員との連携など地域との関係性を高める。また、ホームページなどで学校の取り組みを積極的情報を発信し、透明性を高める。</p> <p>指標 年度末の保護者アンケートの「学校では、社会のルールを守る態度を育てようと努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、85%以上にする。R7 97.4%</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <p>校内研修を3回実施した。ICT支援員の訪問を活用し、教育活動を進めた。アンケート結果は93%と目標を達成できた。</p>	

<p>取組内容②</p> <p>学校閉庁日については、夏季休業期間中 2 日実施した。冬季休業期間においては 1 日実施した。3 月 2 日現在、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合は 62%である。また、ストレスチェックの実施は 100%実施済みであり、集団分析結果は 94 であり、昨年度より低くなり、よい結果となった。</p> <p>取組内容③</p> <p>調査結果は R7 97.4%であり、目標を大きく上回っている。引き続き継続していく。</p>
<p>次年度への改善点</p>
<p>取組内容①</p> <p>研修内容を精査し、ニーズに合わせた研修を行えるようにしていく。ICT 指導員の訪問を周知徹底し、さらなる活用をできるようにしていく。</p> <p>取組内容②</p> <p>校務の整理と効率化を図り、働き方改革を進めていく。</p> <p>取組内容③</p> <p>引き続き、継続できるようにしていく。</p>

大阪市立茨田中学校 令和 7 年度 学習指導目標(教科)

国語科

年度目標：国語への興味関心を高め、特に「書くこと」の向上に努める。

取り組み内容	評価	
① 教材等を工夫し、学校生活アンケートにおいて「国語の学習はわかる」の項目で、肯定的回答が 80%を超えるように努める。	A	B
② 単元の終わり等、定期的に文章を書く機会を設け「書くこと」への抵抗感を減らすよう努める。	B	
③ 定期テスト等における「思考力、判断力、表現力等」の分野の解答率が 60%を超えるよう、指導の充実を図る。	B	

社会科

年度目標：生徒の学習意欲を高め、基礎学力の充実をはかる。

取り組み内容	評価	
① 基本的な用語の定着をはかるため、資料や視聴覚教材を活用し、学校生活アンケートで「社会の学習はわかる」の項目で、肯定的回答が全学年で 85%を超えるようにする。	B	B
② 読解力や資料活用能力を育む観点から、積極的に教科書から読み取る場面を増やす。学期ごとの教科独自のアンケートで、「教科書を利用して学習した」という回答を 83%以上にする。	B	

数学科

年度目標：自主的に学習する態度を養い、基礎学力の定着をはかる。

取り組み内容	評価	
① ひとりひとりの生徒の実態を的確に把握し、提出物については85%以上の提出率を目指す。	B	B
② 数学に興味をもてるようにICT機器を活用し、生徒アンケートでの「数学の学習はわかる」という項目で、80%以上の肯定的な回答を目指す。	A	
③ 学期に3回以上は教科会を行い、それぞれの教材や取り組み内容などを共有する。	B	

理科

年度目標：生徒の学習意欲を高め、基礎学力の充実をはかる

取り組み内容	評価	
① 生徒のまわりにある身近な例をとりあげたり、ICT機器を活用したりすることで、理科に対する興味・関心を高め、学校生活アンケートで「理科の学習は楽しい」の項目で、肯定的回答が85%を超えるようにする。	B	B
② 実験・観察などグループワーク等の時間を多くとり入れ、基礎学力の定着をはかり、学校生活アンケートで「理科の学習はわかる」の項目で、肯定的回答が85%を超えるようにする。	A	

音楽科

年度目標：学習意欲を高め、基礎的な能力の充実をはかる。

取り組み内容	評価	
① 音楽活動を通じて音楽を形作っている要素を知覚させ、用語や記号、楽譜、発声法、楽器の奏法などの知識や技能を理解させ、基礎的な能力を伸ばす。	B	B
② 合唱コンクールなどの取り組みを通して音楽活動に進んで参加させ、そのすばらしさを体験させる。発表の場を、年間3回以上設ける。	A	
③ 音楽鑑賞を年間3時間以上行い、鑑賞を通じて音楽の良さを幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。	B	

美術科

年度目標：苦手意識を取り除き、興味関心を持たせ主体的に取り組ませる。

取り組み内容	評価	
① 忘れ物をなくし、授業の準備、後始末をしっかりと素早く行えるようにする。	B	B
② 授業を計画的に進め、提出期限内に提出するように指導する。作品提出率を80%以上にする。	B	

③ 課題に主体的に取り組ませるために興味関心を持たせる手立てを考え、向上心を持って授業に集中させるように指導する。自己評価カードの記入を通じて自主的に取り組む能力を育てる。	B	
--	----------	--

保健体育科

年度目標：集団の一員としての責任感を育て、自己の課題に自主的に取り組む態度を育成する。

取り組み内容	評価	
① 実技指導を通して、集団行動を身につけさせ、運動に親しむ心を育てる。 アンケートでは、運動やスポーツをすることが好きだという項目で肯定的意見を80%以上にする。 R7 79.4	B	B
② 基礎体力の向上と自己の課題と向き合い、主体的に課題に取り組む態度の育成に努める。	A	
③ 保健指導を通して、心身ともに健康な生活を送るための知識理解を深め、自己の健康管理のできる生徒の育成に努める。また、生命の大切さに気付かせる。	A	

技術・家庭科

年度目標：生徒の学習意欲を高め、自立した生活に必要な基礎知識と基礎技術の習得を図る。

取り組み内容	評価	
① 技術分野・家庭分野共に、授業に意欲的に参加し、興味・関心をもって取り組んでいるかの指標として、「授業がわかる」が75%以上の肯定的評価を得られるように、授業を工夫する。	B	B
② 技術分野では、教科内容の知識と技能の定着を図り、その指標として、実習における80%以上の生徒の作品の完成を目指し、指導に当たる。	A	
③ 家庭分野では基礎知識と基礎技術の定着を図り、さらに発展させるための指標として、授業内容に併せて出す課題やレポートなどの提出率を75%以上にする。	A	

英語科

年度目標：生徒の学習意欲を高め、基礎学力の充実をはかる。

取り組み内容	評価	
① 帯活動やグループ活動、ICT機器を活用し、学校生活アンケートで「英語がわかる」の項目で、肯定的回答が80%を超えるようにする。	B	B
② 基礎学力の充実をはかるために課題等の提出率が80%を超えるようにする。	A	

特別支援(インクルーシブ)教育

年度目標：自立を念頭に置き、生徒自らが特性に気付けるように自立活動に取り組む。また、主体的な進路選択及び決定ができるように連携する。

取り組み内容	評価	
① 合理的配慮をふまえ、個に応じた支援のもと支援体制を充実させる。また、「指導計画」や「支援計画」を保護者と作成し、教職員間での連携を図る。	B	B
② 個々の教育的ニーズを把握し、個に応じたアセスメントに基づく支援内容や指導を計画する。	B	
③ 進路選択に向けて、さまざまな情報を提供する。また、インクルーシブ教育推進スタッフの巡回等で、進路や支援体制などの相談を活用する。	B	

結果と分析

【国語科】① 1 2月の学校生活アンケートで「国語の学習はわかる」という項目について、肯定的な回答は 89.2%と指標の数値を達成しているため A とする。

② 「書く」活動については、ワークを利用した短いものから、意見を書く長いもの、手紙やはがきなど様々な種類の活動を取り入れることで、書くことへの抵抗感を減らすことができている。

③ 定期テスト等でも書く力が必要な「思考・判断・表現」分野の解答率は6割を超えている。

【社会科】

① 1 2月の学校生活アンケートで「社会がわかる」の肯定的回答は 85.5%であった。授業の工夫、ICT 等を用いた主体的・対話的な学習、ワークシート、小テストの成果があったため B とする。

② 教科独自のアンケートを行い、「教科書を利用して学習した」という肯定的回答が、1年生では 76.9%、2年生では、87.4%、3年生では、92.8%という結果であった。全体で 86.5%であった。教科書を利用し、資料に触れることで、読解力を養うことができたため B とする。

【数学科】

① 提出率に関して、1年:87.8%、2年:85.4%、3年:85.2%であり、目標値は上回ったため B とする。

② 学校生活アンケートの「数学の学習はわかる」の項目で、肯定的回答が 84.4%と目標値を上回ったため、A とする。生徒自身が学習の理解度や課題を実感できるよう小テストを行ったり、単元ごとの振り返りに ICT を活用したりすることで、目標の達成度の確認をした。また、習熟度別少人数指導の授業も行い、コースを生徒自身で選択させることにより、意欲的・主体的に取り組むことができた。スモールステップの学習や、自己の学習の振り返り、主体的に学ぶことの効果が出たと思われる。

③ 実力テストの検討や、普段の授業の相談で、頻繁に数学教員間で意見交流を行ったため、B とする。しかし、個人間での相談も多く、数学科全体としての共通認識を図る教科会は多くなかった。

【理科】① アンケートの結果、目標 85%より低い 80%となったので B とする。

② 目標の 85%より高い 88%となったので A とする。

全体の評価としては①が目標達成できなかった部分をふまえて B とする。

【音楽科】① 基礎能力の定着において、確実に成長しているが、全員には及ばず、B とする。

② 本校は合唱コンクールなどの文化行事に熱心に取り組んでいる環境があり、生徒に発表の場を設け、互いに鑑賞し、豊かな心を養う時間を持っていることから、

Aとする。

- ③ 鑑賞の授業を年間3回行うことができた。しかし、全員が主体的に関わっているレベルには達さずBとする。

【美術科】

- ① 準備、片付けに関しては昨年度よりスムーズに行えるようになったが、忘れ物は各学年大きく減ることがなかったためBとする。
- ② 作品提出率は、各学年90%近くまで上がり、目標が達成できたためBとする。
- ③ 実技指導や声掛けなどの工夫を行うことができた。授業カードの書き込みからも生徒が意欲的に、向上心を持って作品に取り組む様子が伺えるためBとする。

【保健体育科】

- ① 「運動やスポーツをすることが好きだ」という項目のアンケート結果において、肯定的意見が79.4%と目標の80%を達成することができなかつたため、Bとする。
- ② 基礎体力の向上と自己の課題と向き合い、主体的に課題に取り組む姿勢が見られた。
- ③ 保健指導を通して、心身ともに健康な生活を送るための知識理解を深め、自己の健康管理を意識させるような学習をすることができた。

【技術家庭科】

- ① 技術分野では目標に2ポイント届かなかつたため、改善が必要となった。
- ③ 作品の提出がよく、近畿大会にも出展できた。
- ④ 授業内容に併せて出す課題やレポート、作品などの提出率が80%以上となった。

【英語科】

- ① 学校生活アンケートで「英語がわかる」の項目で肯定的な回答が昨年度より2%上昇し、80.3%と目標値を超えることができた。教材や活動を工夫して取り組み、習熟度別少人数授業で個々の課題に応じた学習を行った成果だと考える。
- ② 課題の提出率は87.2%と目標値を超えることができた。課題の内容、量、タイミングなどを工夫したうえに、きめ細やかにまた粘り強く指導した結果だと考える。

【特別支援（インクルーシブ教育）】

- ① ②次年度に向けて、年度末に懇談を行い、支援計画・指導計画の内容を保護者と一緒に考えた。個に応じた支援をするために、連絡帳や家庭連絡、懇談を通して、保護者と支援内容を検討し、学年会や職員会議、必要に応じて内容の共有を行った。12月にアンケートを行った結果、「子どものことを理解して支援を行ってくれている」1年66%、2年86%、3年87%、「支援・指導目標を考えて指導している」1年50%、2年93%、3年87%、「子どもの自立に向けてきめ細やかな指導をしている」1年83%、2年100%、3年87%の肯定的な回答が得られた。結果Bとする。
- ③ 進路選択に向けて、保護者・生徒の思いを傾聴した。また、一般校や必要に応じて支援関係の学校、専修学校、通信制高校などの情報提供を行った。2・3年生向けに12月のア

ンケートを行った結果、「進路に関しての情報をよく提供している」 2年 73%、3年 87%、「個々に応じた進路指導を行ってくれる」 2年 60%、3年 87%であった。「わからない」の回答が多かったのが今後の課題である。また、インクルーシブ教育推進スタッフの巡回指導等を学期に1回活用した。結果 B とする。

次年度への改善点

【国語科】定期テスト等で「思考・判断・表現」分野の解答率は6割を超えているが、正答率は45%～50%であり、指導や教材にさらなる工夫が必要である。

【社会科】教科書を利用して学習する観点において、全学年で目標を達成することができなかったため、来年度以降も、教科書や資料を用いて、読み取る活動を重視し、「思考力」を養うように務めていきたい。

【数学科】

直近5年の生徒アンケートにおいて、「数学の学習はわかる」「数学の学習は楽しい」「数学の学習は好き」のいずれの項目でも、肯定的回答の割合が減少傾向にある。「わかる」については、教材研究やTT、習熟度別授業の改善、より一層の充実を図る。「楽しい」「好き」については、教具やICTを活用し、生徒の興味関心を刺激するような授業を展開していきたい。

【理科】実験・観察や視覚的な教材の活用をしながら生徒の興味関心を引く授業内容の展開だけでなく、グループワークや自ら考えながら答えを導くための展開内容を進めていくことで主体的な学びができるように工夫していく。

【音楽科】より主体的に関われる授業の展開を工夫してみる、音楽科に向くICTの活用などを工夫してみる。

【美術科】

【保健体育科】「運動やスポーツをすることが好きだ」という項目のアンケート結果が、目標の80%以上になるよう、運動が得意な生徒も苦手な生徒も運動意欲が高まるような授業の工夫をしていきたい。

【技術家庭科】

目標をクリアすると同時に内容にもこだわられるように、ICTの活用法やプリントについて改善し、授業の工夫をしていきたい。

【英語科】

引き続き、帯の時間や習熟度別少人数授業の時間を活用して基礎学習にとりくむ。また、より効果的なC-NETやICTの活用、ペア・グループワークについて研究・実践し、教科内で共有する。

【特別支援（インクルーシブ教育）】

アンケート結果を踏まえて、支援・指導計画を有効に活用し、支援のあり方について体制を深めていく。また、自立活動の時間を増やし、必要な力が身につけられるよう工夫する。今年度に引き続き自立に向けて、保護者・教職員との連携を図り、進めていく。

進路指導については、情報提供を密にして保護者・本人の思いを傾聴し、円滑に進める。